

# 定例記者会見資料



○日 時	平成26年10月8日(水) 13時30分～
○会 場	島根県立大学 本部棟2階 特別応接室
○会見者	本田雄一 理事長・学長
○会見項目	<p><b>【浜田キャンパス】</b>          ・中国 東北師範大学東亜文明研究中心との共同シンポジウム          の開催について…………… [資料1]</p> <p><b>【松江キャンパス】</b>          ・おはなしレストランライブラリーのマイクロ・ライブラリーアワード          受賞について…………… [資料2]</p>
○資料提供項目	<p><b>【3キャンパス共通】</b>          ・平成25年度「地(知)の拠点整備事業」成果報告書          (地域連携活動報告書) 概要版について…………… [資料3]</p> <p><b>【浜田キャンパス】</b>          ・特別公開講座『発酵食品 魔法の力』(11/16) の開催について…………… [資料4]          ・平成26年度島根県立大学(浜田キャンパス) 進路懇談会開催について …… [資料5]          ・韓国 蔚山大学校との共同シンポジウムの開催について…………… [資料6]          ・島根県立大学総合政策学会特別講演会の開催について…………… [資料7]          ・「フレッシュマン・フィールド・セミナー」の開講について…………… [資料8]</p> <p><b>【出雲キャンパス】</b>          ・「第2回 出雲キャンパスプラットフォーム会議」の開催について…………… [資料9]          ・特別講演会「共に生きる未来をめざして」の開催について…………… [資料10]          ・平成26年度出雲消防多数傷病者対応及び指揮訓練実施と          学生ボランティアの訓練参加について…………… [資料11]</p>
○行事予定	<p><b>【大学祭・開催日程】</b>          ・海 遊 祭【浜田キャンパス】……………10月12日(日)～10月13日(月)          ・飛 鳥 祭【松江キャンパス】……………10月11日(土)～10月12日(日)</p> <p><b>【入試日程】</b>          ・自己推薦入試【浜田キャンパス】……………10月18日(土)～10月19日(日)          ・看護学部3年次編入学試験【出雲キャンパス】……………11月8日(土)          ・別科助産学専攻推薦入試【出雲キャンパス】……………11月1日(土)</p>

※会見及び資料提供に関する問い合わせは、資料に記載されている担当者あてにお願いします。  
 なお、行事予定の問い合わせは、以下のとおり、お願いします。

浜田キャンパス 総務課 TEL 0855-24-2200  
 出雲キャンパス 管理課 TEL 0853-20-0200  
 松江キャンパス 管理課 TEL 0852-26-5525



※次回の定例記者会見は 平成26年11月12日(水) 13:30から開催予定です  
**マスコットキャラクター「オロリン」です。**

平成 26 年 10 月 8 日  
島根県立大学 浜田キャンパス  
担当：企画調整室（齋藤伸朗）  
電話：0855-24-2201

## 中国 東北師範大学東亜文明研究中心との共同シンポジウムの開催について

### 1 目的・理由

中国・東北師範大学東亜文明研究中心 の研究者 9 名を招へいして、『激動する北東アジアの共生を求めて』と題し、共同でシンポジウムを開催します。

同 中心（センター）と本学北東アジア地域研究センターは、昨年 9 月に学術交流協定を締結しました。今回はその協定に基づき、学術シンポジウムの共催を通して学術交流を一層進めていくことを目的としています。

### 2 日時

平成 26 年 11 月 1 日（土） 9 時開会 17 時 40 分閉会 予定

### 3 場所

浜田キャンパス 講義研究棟 1 F 中講義室 3

### 4 主催者(共催)

島根県立大学 北東アジア地域研究センター(NEAR センター)  
東北師範大学 東亜文明研究中心

### 5 内容

別添 タイムスケジュール 参照

### 6 出席者

ご関心のある方であれば、どなたでもご参加頂けます。

### 7 参加費用

無料

注) 休日のため本学飲食関連施設は休業しております。昼食等をご用意ください。

※以上いずれも 10 月 8 日現在のものです。今後 一部変更になる可能性もございます。その際は本学HPにてお知らせいたします。

※中国東北師範大学東亜文明研究中心との学術交流協定（別添 資料 参照）

[http://hamada.u-shimane.ac.jp/research/organization/near/exchange/nenu\\_ceac.html](http://hamada.u-shimane.ac.jp/research/organization/near/exchange/nenu_ceac.html)

以上



# 「激動する北東アジアの共生を求めて」

平成26年11月1日(土) 9:00 ~ 17:40

島根県立大学 浜田キャンパス 講義研究棟1F 中講義室3

時間	プログラム
9:00	開会 <span style="float: right;">総合司会: 李曉東(島根県立大学)</span>
9:00~9:10	東北師範大学・島根県立大学 ご挨拶
9:15~10:05	<b>特別講演会</b> ----- 宇野重昭(島根県立大学 名誉学長) 「島根県立大学における北東アジア学の新展開について」
10:10~12:40 報告 各25分 討論 30分	<b>セッション1「近代東アジアにおける社会民主主義の展開」</b> <span style="float: right;">司会: 井上厚史(島根県立大学)</span>  ①周頌倫(東北師範大学) 「戦後日本平和憲法の政治的価値」 ②大田英昭(東北師範大学) 「日本社会民主主義と帝国主義」 ③飯田泰三(島根県立大学) 「幸徳秋水: 志士仁人の社会主義」 ④山本健三(島根県立大学) 「グローバル・アナーキズムの起点としてのミハイル・バクーニン」 討論 董灝智(東北師範大学)、林裕明(島根県立大学)、石井知章(明治大学)
12:45~13:35	休憩(昼食)
13:30~16:30 報告 各25分 討論 30分	<b>セッション2「中国の台頭と北東アジア地域秩序の変動」</b> <span style="float: right;">司会: 福原裕二(島根県立大学)</span>  ①韓賓娜(東北師範大学) 「渤海国五京に関する考察」 ②苗威(東北師範大学) 「朝鮮半島歴史問題に関する新たな考察」 ③劉曉東(東北師範大学) 「洪武期冊封朝貢体制の再建と東アジア秩序」 ④高一(島根県立大学) 「東アジア国際秩序の変容と朝鮮での停戦協定体制ー1970年代を中心に」 ⑤佐藤壮(島根県立大学) 「国際公共財のガバナンスと中国外交ー2000年代の東アジア地域秩序形成の視点から」 討論 刁書仁、王来特(以上、東北師範大学)、石田徹(島根県立大学)
16:40~16:50	休憩
16:50~17:40	<b>総合討論</b> ----- 韓東育(東北師範大学)、飯田泰三(島根県立大学)
17:40	閉会

※ 通訳(逐次)がございます。

※ スケジュールは10月8日現在のものです。今後 一部変更になる可能性もございます。

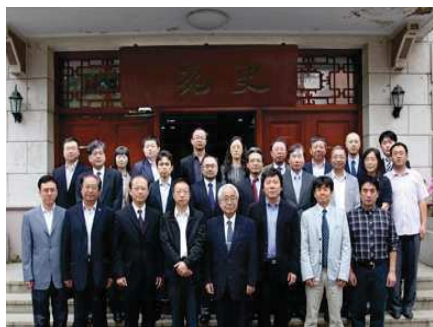
# 中国東北師範大学東亜文明研究中心との学術交流協定

## 中国・東北師範大学東亜文明研究中心との学術交流協定

2013年9月19日に李曉東センター長をはじめとするNEARセンター研究員等9名が中国吉林省長春の東北師範大学東亜文明研究中心(センター)を訪問し、韓東育センター長との間で学術交流に関する協定を締結しました。また、調印後は両センターの研究員によるシンポジウムも開催されました。

学術交流協定においては、両センター間の学術交流を一層強化するため、次のようなことに積極的に取り組んでゆくこととしています。

- 代表団の相互訪問
- 教員・研究者、および行政人員の交流
- 学生を相互に派遣し、相手側の機関で勉強するなどの活動
- 関連の学術シンポジウムの共催
- 公刊した学術資料、大学の刊行物及び学術通信の交換
- 双方が教育・研究及び発展において有益であると判断した、その他の交流活動



(\*)



(\*)写真提供: 東北師範大学歴史文化学院

【リンク】[東北師範大学東亜文明研究中心](#) > 

平成 26 年 10 月 8 日  
島根県立大学短期大学部 松江キャンパス  
担当：岩田 英作  
電話：0852-20-0216

## おはなしレストランライブラリーのマイクロ・ライブラリーアワード 受賞について

この度、おはなしレストランライブラリーは、第2回マイクロ・ライブラリーサミット（平成 26 年 8 月 30 日（土）開催）において、大阪府立大学よりマイクロ・ライブラリーアワードの表彰を受けました。

### 1. 今回の受賞について

「本を通じた人と人とのつながりを生み出し地域にも貢献する」活動に対して授与され、今年度は 12 団体が受賞しました。おはなしレストランライブラリーの受賞は、昨年度の『曾田篤一郎文庫ギャラリー』（松江市）について、島根県内では 2 館目の受賞になります。また、国内での大学附属の図書館としての受賞は、本年度一緒に受賞した関西医科大学滝井病院内の図書室とおはなしレストランライブラリーの 2 館のみです。

### 2. 今後の展開について

本年度のマイクロ・ライブラリーサミットでは、米国から巣箱型の図書館をつくって全米、全世界 15,000 カ所に設置している「Little Free Library（リトル・フリー・ライブラリー）」の創設者、Todd Bol（トッド・ボル）氏による特別講演が行われ、トッド氏は、おはなしレストランが展開する学生による読み聞かせ活動に特に関心を示されました。アメリカでも同じような取り組みをぜひしたいということで、おはなしレストランでは、活動を英語にまとめ、改めてボル氏に届ける予定です。

### マイクロ・ライブラリーサミットとは

『個人または小さな団体が、個人の蔵書や地域で集めた本を広く開放し、閲覧や貸出を行っている私設図書館「マイクロ・ライブラリー」』（※全国で 500 団体以上）を運営する人々が、『始めたきっかけ、運営の工夫など、想いを共有し合うサミット』で、平成 25 年 8 月に第 1 回が開催されました。

（まちライブラリー@大阪府立大学 <http://opu.is-library.jp/ml/mls2014/> より引用）



## 【参考】おはなしレストランライブラリーについて

### 1. 概要

おはなしレストランライブラリーは、平成 22 年 4 月に開館した、絵本専門の図書館です。島根県立大学短期大学部松江キャンパス内に、付属図書館とは別に設置し、平成 23 年 4 月からは一般開放も行っています。現在の蔵書数は約 11,000 冊で、学内外において多くの方の利用があります。

### 2. 設置の経緯

松江キャンパスでは、平成 18 年度から絵本の読み聞かせを取り入れた教育を行っており、この取組を総称して「おはなしレストラン」と呼んでいます。平成 21 年度に文部科学省から大学教育推進プログラムに選定されたことを機に、その取組を大幅に拡充し、おはなしレストランライブラリーの設置もそのひとつです。

### 3. 利用状況（平成 25 年 4 月～平成 26 年 2 月）

#### 月平均の来館者人数

学内：404 人      学外：774 人

#### 月平均の貸出冊数

学内：370 冊      学外：2828 冊

### 4. その他

おはなしレストランライブラリーについての詳細は下記 URL よりご覧いただけます。

<http://www.oha-res.com/library/index.html>

#### おはなしレストランライブラリー利用案内

##### 開館時間

水曜日～金曜日 10：00～18：00

土曜日・日曜日 10：00～17：00

##### 休館日

月曜日、火曜日、毎月第 4 木曜日の午後（12 時以降）、祝日、年末年始 他

##### おはなしの時間

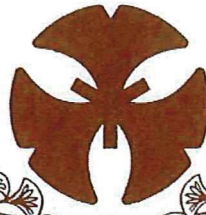
毎週日曜日 11：00～11：30

##### 本の貸出について

- ・貸出カードはどなたにでもおつくりします。
- ・住所の分かるものをお持ちください。
- ・貸出冊数 1人5冊まで
- ・貸出期限 2週間

※授乳室あります。

※駐車場あります（正門を入れて右手。無料）。



# 表彰状

おはなしレストランライブラリー様

あなたの活動は本を通じた人と  
人とのつながりを生み出し地域  
にも貢献するものであります  
今後一層の活躍を期待してマイ  
クロ・ライブラリーアワードを  
贈り表彰します

平成二十六年八月三十日

公立大学法人 大阪府立大学

理事長・学長 奥野武俊



平成 26 年 10 月 8 日

島根県立大学 浜田キャンパス

担当：地域連携課 竹口・河部・榎野

電話：0855-24-2396

## 平成 25 年度「地（知）の拠点整備事業」成果報告書（地域連携活動報告書） 概要版について

8 月定例記者会見（8 月 8 日）において、『平成 25 年度「地（知）の拠点整備事業」成果報告書』の作成についてお知らせしましたが、この度自治体や関係団体の皆さまだけでなく、広く一般県民の皆さまにも本学地域連携活動の取り組みを深く知って頂くことを目的として、別添のとおり写真を多数盛り込んだ「成果報告書の概要版」を作成しました。

浜田、出雲、松江キャンパスそれぞれの活動状況に加え、今後の大学との連携依頼ポイントを示した、「年間スケジュール」も記載しています。

地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学として、より一層努めて参りますので、今後とも宜しくお願い致します。

なお、本報告書の概要版については大学ホームページからもご覧いただけるよう準備しているところです。





平成 26 年 10 月 8 日  
島根県立大学 浜田キャンパス  
地域連携課  
担当者：河部、前原  
電話 0855-24-2396

### 特別公開講座『発酵食品 魔法の力』（11/16）の開催について

来たる 11 月 16 日（日）、本学浜田キャンパス講堂を会場に、醸造学、発酵学、食文化論で執筆・テレビ出演など様々な分野で活躍中の農学博士、特定非営利活動法人発酵文化推進機構理事長、小泉武夫氏を講師として迎え、「発酵食品 魔法の力」と題して、以下のように特別公開講座を開催します。

今回の講演は事前申し込み制になっています。また、当日は島根の発酵食品の展示販売も同時におこないます。

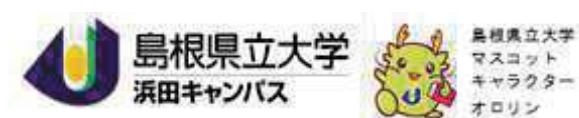
#### 記

- 日時：平成 26 年 11 月 16 日（日） 13：30～15：30（開場 12：30）
- 会場：島根県立大学 浜田キャンパス 講堂
- 演題：「発酵食品 魔法の力」
- 講師：小泉武夫氏（東京農業大学名誉教授）
- 定員：500 人程度
- 入場料：無料
- 申込締切日：平成 26 年 10 月 20 日（月）
- 申込方法：メールまたは F A X ・ はがき ・ 電話で、氏名（ふりがな）・連絡先（電話番号など）を連絡してください。
- 申込み・問い合わせ先：島根県立大学浜田キャンパス地域連携課  
〒697-0016 島根県浜田市野原町 2433-2  
TEL：0855-24-2396 FAX：0855-24-2208  
E-mail：tiiki@admin.u-shimane.ac.jp

#### 《同時開催》「島根の発酵食品の展示販売」

小泉武夫氏の特別講演の演題が「発酵食品魔法の力」であることから、この講演にあわせて島根県内の「発酵食品」の展示販売コーナーを設置します。出展者（品）については、現在調整中です。

※参考資料：告知チラシ



平成26年度 島根県立大学 浜田キャンパス

特別公開講座

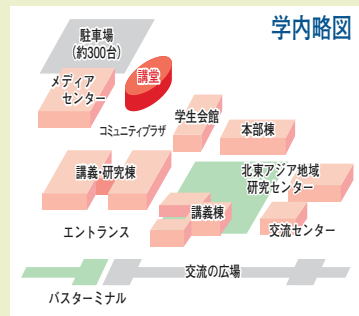
# 発酵食品 魔法の力

日時 11月16日(日)  
平成26年 13:30~15:30(開場12:30)

場所 島根県立大学 講堂  
(浜田キャンパス)

入場料 無料

定員 500名程度



同時開催  
島根の「発酵食品」展示販売もあります。



マスコットキャラクター  
「オロリン」

事前申込  
が必要です！  
申込締切  
10月20日(月)

## 申込方法

事前に電子メール、FAX、はがき、電話のいずれかにて、お名前(フリガナ)、連絡先(電話番号等)をご連絡ください。なお、定員になり次第その時点で締め切りますので、お早めにお申し込みください。

講師 東京農業大学名誉教授  
小泉 武夫 氏

1943年に福島県の酒造家に生まれる。農学博士。専門は醸造学、発酵学、食文化論。特定非営利活動法人発酵文化推進機構理事長。執筆、テレビ出演など、さまざまな分野で活躍中。著作は単著で130冊を越す。受賞歴多数。現在、「食あれば楽あり」(日本経済新聞)を連載執筆中。

【お申し込み・お問い合わせ先】

〒697-0016  
島根県浜田市野原町2433-2  
島根県立大学浜田キャンパス 地域連携課  
TEL: 0855-24-2396  
FAX: 0855-24-2208  
E-mail: tiiki@admin.u-shimane.ac.jp

平成 26 年 10 月 8 日

島根県立大学 浜田キャンパス

担当：キャリア支援室 坂田栄一郎

電話：0855-24-2202

## 平成 26 年度島根県立大学（浜田キャンパス）進路懇談会開催について

学生、保護者及び大学関係者が一堂に会して、学修や大学生活及び進路に関する情報交換により情報の共有を図ることを目的として開催しております。

- 開催日 平成 26 年 10 月 26 日（日）10：00～15：40
- 場 所 島根県浜田市 島根県立大学内 講堂及び体育館
- 対象者 浜田キャンパス 1 年生～4 年生の学生及び保護者
- 内 容
  - ◇10:00～12:10 全体会(講堂)
    - ・ 10:00～10:20 学長あいさつ
    - ・ 10:20～10:40 島根県立大学のキャリア教育・就職支援  
キャリアセンター副センター長 松尾 哲也
    - (10 分休憩)
    - ・ 10:50～11:20 特別講演 … 株式会社リバーズキャリアパートナーズ  
代表取締役 坂本 章紀 氏
    - ・ 11:20～12:10 パネルディスカッション…  
コーディネーター キャリアセンター副センター長 松尾 哲也  
パネリスト 坂本章紀 氏  
平谷 太 氏  
(シマネ益田電子株式会社 取締役副社長)  
黒崎 修一 氏 (県立大学 0B・2 期生)  
(有限会社 中村茶舗 営業課課長補佐)
    - (昼休憩)
    - ◇13:10～15:40 ゼミ懇談会 (体育館)
      - ・ 個別相談(要予約) … 進路、学業、学生生活など 1 組 20 分程度

昨年の状況

平成 25 年度進路懇談会参加者 123 名 (88 組)



※過去の懇談会の様子

平成 26 年 10 月 8 日  
島根県立大学 浜田キャンパス  
担当：企画調整室 齋藤 伸朗  
電話：0855-24-2201

## 韓国 蔚山大学校との共同シンポジウムの開催について

### 1 目的・理由

韓国・蔚山（ウルサン）大学校とは、本学の前身である島根県立国際短期大学時代の平成 6（1994）年 6 月に交流協定を締結して以来、学生交流・研究交流の両面に渡り、活発な交流を続けています。

今年は、交流協定締結 20 周年にあたるため、『蔚山大学校 交流協定締結 20 周年記念事業』（9 月記者会見項目）のひとつとして記念のシンポジウムを開催いたします。皆様ふるってご参加いただきますようお願い申し上げます。

### 2 日時

平成 26 年 10 月 10 日（金） 13 時 30 分開会 17 時 20 分閉会 予定

### 3 場所

浜田キャンパス コンベンションホール

### 4 主催者

主催：島根県立大学・蔚山大学校

共催：島根県立大学北東アジア地域研究センター（NEAR センター）

### 5 内容

別添 パンフレット 参照

### 6 出席者

ご関心のある方であれば、どなたでもご参加頂けます。

本学の一部の学生も、授業の一環として 聴講させていただきます。

### 7 参加費用

無料

以上



蔚山大学校



島根県立大学

# UNIVERSITY OF ULSAN UNIVERSITY OF SHIMANE JOINT SYMPOSIUM

蔚山大学校交流協定締結 20 周年事業シンポジウム

## 日韓関係を展望する

ウルサン  
—北東アジアにおける蔚山と島根の絆—

日時：平成26年10月10日（金）13：30 ～ 17：20

会場：島根県立大学 交流センター2階 コンベンションホール

### —プログラム—

#### オープニング 13：30～

- 本田 雄一 島根県立大学学長挨拶
- 蔚山大学校の紹介・ビデオ上映

#### 基調講演 14：00～

- 李 哲 蔚山大学校総長  
「テーマ：世界化と大学の使命」
- （司会） 李 暁東（島根県立大学北東アジア地域研究センター長）

#### シンポジウム 14：40～

各報告の後に10分程度質疑応答

- 報告者       ： 魯 成 煥 （蔚山大学校人文大学 教授）  
                  「蔚山から島根に行った中国人陶工」
- 井上 厚史 （島根県立大学総合政策学部 教授）  
                  「李藝と石見のつながり—『朝鮮王朝実録』と『同文彙考』をもとに」
- 許 英蘭 （蔚山大学校 副教授）  
                  「忘れられた韓日出会いの場—蔚山達里村」
- 福原 裕二 （島根県立大学総合政策学部 准教授）  
                  「日韓関係における“隣接性の齟齬”を越えて」
- 司 会        ： 李 暁東

#### 閉会の挨拶

主 催：島根県立大学・蔚山大学校  
共 催：島根県立大学北東アジア地域研究センター

問合せ先：島根県立大学 事務局企画調整室  
TEL：0855-24-2201 FAX：0855-22-2208  
E-mail：kikaku@admin.u-shimane.ac.jp

## 報告者等プロフィール(プログラム順)

### 基調講演



李 哲 (り ちよる) Lee Chul

蔚山大学校第9代総長。

ソウル大学医学部卒業後、同大学病院神経精神科、スイスのチューリッヒヒュング研究所にて修練を積む。専門は、精神医学、ユング研究。大韓神経精神医学会学術理事、韓国分析心理学会会長、ソウル峨山(アサン)病院教育部長、大韓医学会臨床医学及び研修教育理事、大韓医師協会の学術理事、蔚山大学病院長、蔚山大学校医学部ソウル峨山病院精神科教授を歴任。

2011年より蔚山大学校第9代総長に就任。

### 報告者



魯 成煥 (の そんふあん) No SungHwan

韓国蔚山大学校人文大学日本学科教授。

大阪大学大学院博士課程修了、文学博士(大阪大学)。神話、歴史、民俗を通して韓国比較文化研究。最近の主要著書は、『日本の民俗生活』、『日本神話と古代韓国』、『梧桐島兎説話の世界性』、『韓日神話の比較研究』(全て ソウル民俗苑 2010)、『古事記』(ソウル民俗苑 2009)、『日本に残った壬辰倭乱』(ソウル J&C.2011)、『日本神話における新羅伝承』(ソウル民俗苑 2014) (いずれも韓国文化観光部指定優秀図書)等。



井上 厚史 (いのうえ あつし) Inoue Atsushi

島根県立大学大学院北東アジア開発研究科・総合政策学部教授、同大学北東アジア地域研究センター研究員。大阪大学大学院満期退学後、韓国蔚山大学校人文大学に3年間在籍。専門は、日本思想史および韓国儒学史。日本近世儒教研究から出発し、近年は朝鮮儒学研究、とくに李退溪の思想について研究を進めている。共著に、『西周と日本の近代』(ぺりかん社 2005)、『歴史のなかの「在日」』(藤原書店 2005)、『正義とは』(岩波書店 2012)、訳書に河宇鳳著『朝鮮実学者の見た近世日本』(ぺりかん社 2001)等。



許 英蘭 (ほ よんらん) Huh YoungRan

韓国蔚山大学校人文大学歴史文化学科副教授。ソウル大学校博士課程卒業、文学博士。韓国近現代社会史、地域史、口述史研究。最近の主要論著『日帝時期場市研究-5 日場の変動と地域住民』(ソウル 歴史批評社 2009)、『長生浦物語り-蔚山鯨浦口の人々』(蔚山 蔚山廣域市南區廳 2012)、『日本の朝鮮植民地支配と植民地的近代』(東京 明石書店 2012、共著)、『蔚山港開港 50 年史』(蔚山 蔚山港灣公社 2013)、『在朝鮮日本人が再現する「地方」-日帝時期地方誌編纂を中心に』『地域と歴史』34(釜山慶南歴史研究会 2014)、『日帝時期邑面協議會と地域政治』『歴史問題研究』31(ソウル 歴史問題研究所 2014)



福原 裕二 (ふくはら ゆうじ) Fukuhara Yuji

島根県立大学大学院北東アジア開発研究科・総合政策学部准教授、同大学北東アジア地域研究センター副センター長。広島大学大学院国際協力研究科博士課程後期修了。専門は、国際関係史、朝鮮半島をめぐる国際関係。主な著書に『たけしまに暮らした日本人たち』(風響社 2013)、『交渉する東アジア』(風響社 2010、共著)、『核拡散問題とアジア』(国際書院 2009、共著)等。

### 総合司会



李 曉東 (り ぎょうとう) Li Xiaodong

島根県立大学大学院北東アジア開発研究科・総合政策学部教授、同大学北東アジア地域研究センター長。成蹊大学大学院法学政治学研究所博士後期課程修了、博士(政治学)。専門は、日中関係史、政治思想史。主な著書に、『近代中国の立憲構想-一厳復・楊度・梁啓超と明治啓蒙思想-』(法政大学出版局 2005)、『転機に立つ日中関係とアメリカ』(国際書院 2008、共著)、『中国政治体制 100 年-何が求められてきたのか』(中央大学出版部 2009、共著)、『転形期における中国と日本-その苦悩と展望-』(国際書院 2012、共編著)等。

平成 26 年 10 月 8 日  
 島根県立大学浜田キャンパス  
 担当者：企画調整室 松島・森本  
 電話：0855-24-2201

## 島根県立大学総合政策学会特別講演会の開催について

島根県立大学総合政策学会では、各界の第一線で活躍されている文化人、経済人等を講師に迎え、教員・学生はもとより地域住民の皆様を対象に講演会を開催しております。

今回は下記のとおり、『「はやぶさ」から伝えたい、創る力の育て方』をテーマに宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 教授 川口淳一郎(かわぐちじゅんいちろう) 氏をお迎えして開催いたします。

### 記

- 講 師 宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所  
教授 川口淳一郎(かわぐちじゅんいちろう) 氏
- 演 題 『「はやぶさ」から伝えたい、創る力の育て方』
- 日 時 平成26年12月12日(金) 15時00分～16時30分まで
- 会 場 島根県立大学 講堂

### ◇【講師プロフィール】

宇宙工学者、工学博士。1978年 京都大学工学部卒業後、東京大学大学院工学系研究科航空学専攻博士課程を修了し、旧文部省宇宙科学研究所に助手として着任、2000年に教授に就任。2007年4月から2011年9月まで、月惑星探査プログラムグループ プログラムディレクター(JSPEC/JAXA)、1996年から2011年9月まで、「はやぶさ」プロジェクトマネージャを務める。現在、独立行政法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所(ISAS/JAXA) 宇宙飛翔工学研究系教授、2011年8月より、シニアフェローを務める。

ハレー彗星探査機「さきがけ」、工学実験衛星「ひてん」、火星探査機「のぞみ」などのミッションに携わり、小惑星探査機「はやぶさ」では、プロジェクトマネージャを務めていた。

主な著書として『人工衛星と宇宙探査機』（コロナ社）、『航空宇宙における制御』（コロナ社）、『ビークル』計測・制御テクノロジーシリーズ（コロナ社）、『はやぶさ、そうまでして君は～生みの親がはじめて明かすプロジェクト秘話』（宝島社）、『小惑星探査機はやぶさ ―「玉手箱」は開かれた』カラー版(中公新書)、『「はやぶさ」式思考法 日本を復活させる24の提言』（飛鳥新社）、『閃く脳の作り方 飛躍を起こすのに必要な11のこと』（飛鳥新社）

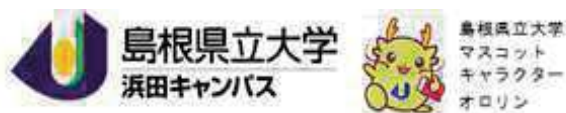
### ※入場は無料です。

#### ■お問い合わせ先

〒697-0016 島根県浜田市野原町 2433-2 島根県立大学企画調整室

電話 0855-24-2201 FAX 0855-24-2208 mail:kikaku@admin.u-shimane.ac.jp

島根県立大学総合政策学会は、総合政策学に関わる研究、発表及びその他本学設立の趣旨にかなう幅広い分野に関する研究活動並びに内外の学者、研究者等を招待した研修とその報告活動を目的としており、本学の教員、学生を主な会員としています。年2回特別講演会の開催を行うほか、「総合政策論叢」の発刊、学生表彰などの活動を行っております。



# 島根県立大学総合政策学会 第27回 特別講演会

講師

宇宙航空研究開発機構

宇宙科学研究所 宇宙飛行工学研究系

教授 かわぐち じゅんいちろう  
川口 淳一郎 氏



演題：

## 「はやぶさ」から伝えたい、 創る力の育て方

日時：2014年12月12日（金）

15時00分から16時30分まで

会場：島根県立大学 講堂

.....

### 【講師プロフィール】

宇宙工学者、工学博士。1978年 京都大学工学部卒業後、東京大学大学院工学系研究科航空学専攻博士課程を修了し、旧文部省宇宙科学研究所に助手として着任、2000年に教授に就任。

2007年4月から2011年9月まで、月惑星探査プログラムグループ プログラムディレクター (JSPEC/JAXA)、1996年から2011年9月まで、「はやぶさ」プロジェクトマネージャを務める。

現在、独立行政法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 (ISAS/JAXA) 宇宙飛行工学研究系教授、2011年8月より、シニアフェローを務める。

ハレー彗星探査機「さきがけ」、工学実験衛星「ひてん」、火星探査機「のぞみ」などのミッションに携わり、小惑星探査機「はやぶさ」では、プロジェクトマネージャを務めていた。

著書：

『人工衛星と宇宙探査機』（コロナ社）

『航空宇宙における制御』（コロナ社）、

『ビークル』計測・制御テクノロジーシリーズ（コロナ社）

『はやぶさ、そうまでして君は～生みの親がはじめて明かすプロジェクト秘話』（宝島社）

『小惑星探査機はやぶさ ―「玉手箱」は開かれた』カラー版（中公新書）

『「はやぶさ」式思考法 日本を復活させる24の提言』（飛鳥新社）

『閃く脳の作り方 飛躍を起こすのに必要な11のこと』（飛鳥新社）

※入場無料

※多くの皆様のご来学をお待ちしております。

問い合わせ先：

島根県立大学 事務局企画調整室 松島・森本

〒697-0016 浜田市野原町 2433-2 TEL:0855-24-2201



## 【資料8】

平成 26 年 10 月 8 日  
島根県立大学 浜田キャンパス  
地域連携課  
担当：河部、竹根  
電話：0855-24-2396

### 「フレッシュマン・フィールド・セミナー」の開講について

#### ～地域の課題発見と課題解決能力を習得～

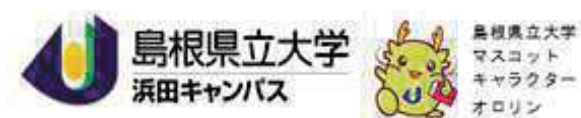
島根県立大学総合政策学部では、平成 23 年度より始まった「フレッシュマン・フィールド・セミナー」(F F S) が、今年度もこの秋学期から開講され、さる 10 月 2 日から授業が始まりました。学生が初年次生の時点から社会に触れ、地域住民と接することを通じて、自らの学習目的を明確化し、主体的に将来像を描く力をつけさせることを目的としています。

この「F F S」では、学生が島根県内、浜田市、近隣地域等、社会のさまざまな現場(フィールド)に出かけていき、そこでフィールドにおられる人々への調査を通じて地域の課題を発見し、その課題の解決策を計画し、提案していきます。授業の流れは事前学習に始まり、フィールド調査、調査結果分析、課題解決策の提案、成果発表のプロセスで構成されています。全 15 回の授業のうち、概ね 10～13 回を教室で行い、2～5 回のフィールド調査を実施します。

このセミナーは春学期のフレッシュマン・スキル・セミナーで学んだアカデミック・スキルを活用しながら、課題発見と課題解決能力を身につけ、2 年次から始まる専門教育への橋渡しをするセミナーです。またグループ学習を実施するセミナーの場合、受講生は少人数のグループを組み、協同作業による自発的で能動的な学びを実践していきます。学期末にはポスターセッション形式の合同成果発表会を開催し、報告書を作成します。

- ◆今後、各クラスの担当教員の指導のもと、随時全受講生がキャンパスを飛び出し、クラスごとに地域の現場に出かけていきますが、クラスによって取り組むテーマや取材・調査先は異なります。詳しくは、別紙の参考資料をご参照ください。

〈参考資料〉



平成26年度 フレッシュマン・フィールド・セミナー

クラス	授業テーマ・概要等	フィールド
赤坂ゼミ	<p>「馬との触れ合い—そこから見えてくるものは…」</p> <p>いわみ福祉会が経営する、かなぎウエスタンライディングパークをフィールドに、馬との触れ合いを通じて、そこから何が見えてくるのか、ゼミ生とともに考えていきたい。本施設をさまざまな角度（例えば、障がい者の就労支援、動物とのふれあい、動物愛護の啓蒙、乗馬セラピー、地域社会への様々な波及効果等）から取り上げることが可能だと思いますが、まずは、10月初旬に同パークで開催される第22回全国障がい者馬術大会を見学させていただき、その後、施設見学を通じて、厩舎の掃除や馬のお世話、馬引きなどを体験させていただいたり、インストラクターの寺本六花さんのお話をお伺いすることで、そこから得られたインスピレーションを具体的な形にしていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かなぎウエスタンライディングパーク</li> </ul>
瓜生ゼミ	<p>「浜田の元気印を探せ！」を全体テーマとする。今年のテーマは「地域の農業」。</p> <p>浜田市田橋町にある(株)扇原茶園を取材対象とし、この地域の農業に関する現況を撮影取材する。長年、お茶の栽培をされている同社は「(株)伊藤園」に生産した茶葉を納品することで、安定した経営であるが、なぜ、この地で茶葉栽培を始めたのか？今後の展開をどう考えているかなど、この地域の農業政策を考える上で示唆に富む内容が期待できよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)扇原茶園</li> </ul>
大橋ゼミ	<p>グラントワ・石見神楽から石見の文化を考えるグラントワ（島根県芸術文化センター）及び石見神楽の現状を調査し、現在いろいろととられている施策を考え、課題を発見し、さらに出来ればこれらをより活性化させるための策を提案する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラントワ（島根県芸術文化センター）</li> <li>・石見神楽</li> <li>・浜田商工会議所</li> </ul>
大前ゼミ	<p>日本でも有数の水産都市である浜田市の現状と課題を探る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浜田市水産課</li> <li>・しまね漁業協同組合浜田支所</li> <li>・水産加工会社</li> <li>・水産加工品販売所</li> </ul>
川中ゼミ	<p>島根県立少年自然の家での体験活動をとおして、より良い社会教育について検討することを目的とする。ゼミでの活動体験のプログラムは、少年自然の家の職員の指導の下で、受講生が立案をする。そのプログラムに沿って活動体験を行う。さらに、そこでの学びを活かして、職場研修など様々な場面で実施される研修のプログラムを提案していきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島根県立少年自然の家</li> </ul>
八田ゼミ	<p>テーマ：「桜江ごぼう」を知っていますか？ — 石見の「風土」と「情熱」が育む特産品の魅力 —</p> <p>江津市桜江町では、町内を流れる江の川水系に育まれた土地柄を活かし、古くからごぼうの生</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有限会社はんだ</li> <li>・ドライブステーション舞乃市</li> </ul>

	産が盛んでした。今、「おいしさ」とともに「食の安全性」や生産現場の環境に対する関心が高まる時代の中で、熱い思いで生産された「桜江ごぼう」が注目されている。具体的な訪問先としては、地元で自然栽培農業に取り組み、全国的な人気ブランド「はんだ牛蒡（ごぼう）」を生産している「有限会社はんだ」を予定している。また、流通・販売の現場として、江津市後地町の「ドライブステーション舞乃市」も訪問する予定。「桜江ごぼう」の生産の歴史や特質、風土との関わり、関係者の方々の「思い」や取り組みの現状等について学び、伝統を引き継ぎつつ新しい時代の流れの中で輝きを増している、地域の個性を活かした特産品の魅力について理解を深めていきたい。	
林(秀)ゼミ	島根県の人口減少と密接にかかわる雇用の問題にアプローチすることを試みる。とくに石見地方をとり上げ、企業の人材確保の状況や従業員の働き方などについて調べる。また、大学生はどのような働き方をしたいと思っているのか、アンケート調査を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハローワーク浜田</li> <li>・ふるさと島根定住財団石見事務所</li> <li>・石見地方の企業</li> </ul>
藤原ゼミ	本セミナーでは、島根県石見地方の4市5町（大田市、江津市、浜田市、益田市、吉賀町、津和野町、邑南町、川本町、美郷町）の食を中心とした産品調査を行う。これは3年、4年生が参加した前期の「調査実習」のテーマでもあり、1年生諸君には先輩たちが追究した本テーマをさらに極めることを課題として設定したい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4市5町（大田市、江津市、浜田市、益田市、吉賀町、津和野町、邑南町、川本町、美郷町）のいずれかの行政、事業所等</li> </ul>
別枝ゼミ	「いわみ福祉会」を解剖する 1973年に発足し、翌年知的障害者更生施設「桑の木園」を開園した「いわみ福祉会」は、今日障害者施設3、同事業所5、中規模老人施設5、小規模老人施設21、その他小・中規模複合施設多数からなる一大組織に成長した。また、知的障害者を雇用するレストランも複数経営している。今年度のFFSではこのいわみ福祉会の全容に迫ることを目的とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いわみ福祉会および傘下の各施設、レストラン等</li> </ul>
光延ゼミ	島根県のような県域が細長く、しかも人口が70万人を下回って、さらに逡減している自治体では、県都（松江）からの距離によって放送や新聞メディアから受ける情報にも較差が生じている可能性がある。都市部ならまだしも、農村部の自治体では、人口分布が拡散しているため、場所によってはメディアの情報が遅れたり、そもそも届きにくかったりすることも想定される。そこで、このクラスでは、「人々はどのようなメディアを通じて生活情報を得ているのか」、この点を、住民への意識調査やメディアの情報発信状況（放送や新聞メディアと住民との関係）などから説明することを試みる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松江市内の各種メディア等</li> </ul>
渡部ゼミ	津和野町の歴史的文化的財を活用した観光業の現状を調査し、課題を発見し、町の観光業を活性化するための振興策を提案する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津和野町</li> </ul>
久保田ゼミ	地域小売業の事業展開 島根県を代表する地域小売業1社をケーススタ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・株式会社キヌヤ</li> </ul>

	<p>ディの題材として取り上げ、同社の取組みを調査することを通じて、地域企業を調査するうえでの手法を学ぶとともに、地域企業の抱える課題やその解決策、地域企業の事業展開の取組みについて学ぶ。</p>	
田中ゼミ	<p>「島根県の地産地消と島根型6次産業ステップアップモデル事業（しまろく事業）」 地産地消を進めるにあたり、地元の製造・加工・販売を通じた6次産業化、農商工連携等の取組が必須であるため、島根県（ブランド推進課）では「島根型6次産業ステップアップモデル事業（しまろく事業）」を開始した。本演習では、しまろく事業者11事業者へのアンケート調査を実施し、島根型6次産業化事業に取り組む事業者の現状と課題について考察を行うことを目的とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島根県庁（ブランド推進課）</li> <li>・しまろく事業採択11事業者より抜粋して訪問）</li> </ul>
林田ゼミ	<p>お酒について知ろう！ お酒には税金が課せられています。しかしお酒の種類によって税金が違います。どうして違うのでしょうか。この授業では酒税について勉強し、地域の酒蔵を訪問してヒアリングします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広島国税局</li> <li>・島根県産業技術センター 浜田技術センター</li> <li>・日本海酒造株式会社</li> </ul>
西藤ゼミ	<p>地方空港の現状と取り組み わが国の空港の多くにおいては、旅客数が今後減少する見込みである。この現実に対して、地方空港、そしてそれらを維持管理する国や自治体はどのように立ち向かおうとしているのか把握する。さしあたり、後背地の特徴で大きく異なる石見空港と広島空港を対象に調べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・益田市（石見空港）</li> <li>・広島県（広島空港）</li> </ul>
豊田ゼミ	<p>このゼミでは、UIターンの最前線の取り組みや、UIターナーへのインタビューのほか、地方の魅力を発見するために必要な視点やその魅力を発信するソーシャルメディアの可能性について見ていく。島根県で起こっている出来事は、将来日本の各地で起こることが予測される。このような中で、地方に人を集める島根県の取り組みについて学んでいきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・UIターナーへのインタビュー（浜田地域、松江地域）</li> <li>・古民家（松江）</li> </ul>
中川ゼミ	<p>福祉現場における高齢者とのコミュニケーションに関する調査・分析を通して、高齢者の方とのより良いコミュニケーションのあり方について明らかにすることを目指す。特定の高齢者福祉施設に赴き、高齢者の方と、スタッフ・学生との間のコミュニケーション（特に会話）についてビデオ撮影取材を行い、得られたデータについて、「会話分析」というアプローチから分析する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島根県内の特別養護老人ホームあるいはグループホーム</li> </ul>

（クラスは五十音順）

※授業の進行の過程において、内容を一部変更する場合があります。フィールド調査等の授業スケジュールは、クラスによって異なります。

平成 26 年 10 月 8 日  
島根県立大学 出雲キャンパス  
しまね看護交流センター  
担当：センター長 齋藤茂子  
          管理課 安食里美  
電話：0853-20-0220

## 「第2回 出雲キャンパスプラットフォーム会議」の開催について

### 1. 目的

「しまね看護交流センター」設置後1年が経過したこの機に、センター事業の進捗状況の中間報告をもとに、キャンパスプラットフォーム会議構成員の方々と大学のスタッフがセンターの役割機能について意見交換を行うことにより、地域課題を共有し、更なる連携強化を図るとともに、次年度の事業展開に向けて課題を明らかにする。

### 2. 日時

平成 26 年 10 月 29 日（水） 10 時～11 時 30 分

### 3. 会場

島根県立大学出雲キャンパス 3号館1階 北会議室  
(出雲市西林木町 151)

### 4. 主催

島根県立大学出雲キャンパス

### 5. 内容

協議事項

- 1) しまね看護交流センター事業の進捗状況等
- 2) その他

### 6. 出席者

出雲キャンパスプラットフォーム会議構成員

本学：しまね看護交流センター運営会議メンバー

しまね看護交流センタープロジェクトリーダー他関係者



## 7. これまでの経緯や今回の特徴など

本学は、地域再生・活性化の拠点となる大学の形成を目指す、文部科学省の「地(知)の拠点整備事業」に応募・採択され、「地域と大学の共育・共創・共生に向けた縁結びプラットフォーム」事業に平成25年度から取り組んでいます。

この事業は、県内自治体、企業、NPO法人等各主体が「縁結びプラットフォーム」に集い、さらに、各キャンパスの専門性を活かした、「キャンパスプラットフォーム」を通して、地域を志向した教育・研究・地域貢献を実施していこうとするものです。

出雲キャンパスでは、昨年10月、この事業を具体的に推進する拠点として「しまね看護交流センター」を設置し、様々な事業に取り組んできました。

今回の会議では、センター設置後1年となるこの時期に、キャンパスプラットフォーム会議構成員の方々に、センター事業について、専門的な観点からのご意見・ご要望をいただき、連携強化を図るとともに、今後のセンター事業の効果的な展開について検討していきます。



島根県立大学  
出雲キャンパス



島根県立大学  
マスコット  
キャラクター  
オロリン

## 第2回出雲キャンパスプラットホーム（しまね看護交流センター）会議

### 開催要領

#### ○ 開催の趣旨

2013年の10月に、しまね看護交流センターを設置してから1年が経過した。今回、センター事業の進捗状況の中間報告をもとに、キャンパスプラットホーム構成員の方々と大学のスタッフがセンターの役割機能について意見交換を行うことにより、地域課題を共有し、さらに連携強化を図る。また、次年度の事業展開に向けて課題を明らかにする。

○ 日時 : 平成26年10月29日（水） 10時～11時30分

○ 場所 : 出雲キャンパス北会議室

○ 出席者 : 出雲キャンパスプラットホーム会議構成員

本学；しまね看護交流センター運営会議メンバー

プロジェクトリーダーほか関係者

#### ○ 協議事項：

1. センター事業の進捗状況等
2. その他

#### ○ 備考

1. 評価委員会開催予定・・・年度末
2. センターの成果報告 冊子にまとめる

平成26年度 島根県立大学出雲キャンパス プラットフォーム会議 構成員

1	公益社団法人 島根県看護協会 会長
2	全国保健師長会 島根県支部長
3	島根県助産師会 会長
4	島根大学医学部看護学科 学科長
5	島根県立石見高等看護学院 副学院長
6	浜田医療センター附属看護学校 学校長
7	出雲医療看護専門学校 学校長
8	松江総合医療専門学校 看護学科長
9	六日市医療技術専門学校 校長
10	島根大学医学部附属病院 副病院長・看護部長
11	島根県立中央病院 看護局長
12	島根県立こころの医療センター 看護局長
13	松江赤十字病院 看護部長
14	松江市立病院 看護局長
15	大田市立病院 看護部長
16	出雲市立総合医療センター 看護部長
17	島根県済生会江津総合病院 看護部長
18	出雲市 健康福祉部 健康増進課 主査
19	国立三瓶青少年交流の家 所長
20	島根県立青少年の家 所長
21	石見銀山テレビ放送株式会社 代表取締役
22	株式会社今井書店 代表取締役社長
23	鳶巣コミュニティセンター センター長
24	川跡コミュニティセンター センター長
25	高浜コミュニティセンター センター長
26	つわぶき後援会 会長
27	つわぶき会 会長
28	NPO法人つわぶきネット 代表
29	島根県 健康福祉部 医療政策課 課長
30	島根県 健康福祉部 健康推進課 課長
31	島根県 健康福祉部 高齢者福祉課 課長
32	島根県 教育庁 社会教育課 課長
33	島根県 総務部 総務課 課長
34	島根県農業技術センター 所長



平成 26 年 10 月 8 日  
島根県立大学出雲キャンパス  
担当：看護学部 石橋 照子  
電話：0853-20-0200

## 特別講演会「共に生きる未来をめざして」の開催について

### 1. 講師

旭山動物園 園長 坂東 元 先生

### 2. 目的

命と向き合うことを仕事としていく者として、自分たちの暮らしを見直し、共に生きる未来を考える機会とする。

### 3. 日時

平成 26 年 10 月 21 日（火）10:40～12:10

### 4. 場所

島根県立大学出雲キャンパス 大講義室

### 5. 対象

出雲キャンパス看護学部 1・2 年生、教職員  
一般市民

### 6. 内容

行動展示で有名な旭山動物園園長の坂東元氏は、「NPO ボルネオ保全トラストジャパン」の理事も務めてられています。同 NPO では、パーム油によって日本人が多くの恩恵を受けている裏で、ボルネオの環境破壊や動物たちの命が絶滅の危機にさらされていることに心を痛めた企業や団体、人が恩返しをしようとする活動をされています。

この NPO 活動や旭山動物園の運営などで坂東先生が大切になさっていることを伺い、共に生きる未来をめざして一人ひとり何ができるかを考えてみたいと思います。

### 7. 参加方法

一般の方は参加自由です。当日会場で受付をしてください。



平成 26 年 10 月 8 日  
島根県立大学出雲キャンパス  
担当：管理課 藤原 晃治  
電話：0853-20-0200

## 平成 26 年度出雲消防多数傷病者対応及び指揮訓練実施と 学生ボランティアの訓練参加について

### 1 訓練の目的

救急隊員の救急スキル、指揮者の判断能力の向上

### 2 看護学部学生の参加の目的

- ・大規模な災害や事故が発生したときの現場がどのようなものか、救急隊員がどのように動き、傷病者を救助するのかを学ぶ。
- ・傷病者（患者）役になり、救助されたりトリアージされる体験をすることで、災害看護・救急看護に対する理解を深める。

### 3 日時

平成 26 年 10 月 22 日（水）14：00～16：00

※1 時間程度の訓練を 2 回実施

### 4 会場

島根県立大学出雲キャンパス第 3 駐車場（出雲市西林木町 1 5 1）

### 5 主催者

出雲市消防本部

### 6 内容

バスの事故により多数の傷病者が発生したと想定し、傷病者の救助を行う。

### 7 参加者

本学学生約 20 名

出雲市消防 6 隊約 25 名

(指令車 1 台、消防車 2 台、救助工作車 1 台、救急車 4 台、マイクロバス 1 台)